

2005

# 和菓子用の包装紙と折り方の研究

A Study of Paper Wrapping Design and Method

AD 06 伊藤 祐美恵  
指導教員 西野 隆司

## 1.研究目的

現在あらゆるところで使われている包装紙は、商品を包み安全性を確保するだけでなく、店のブランド表現やヴィジュアルを美しくするなど様々な目的を持っている。

またデザインでも様々なものが展開されているが、物を包んだ状態での包装紙のデザイン、グラフィックパターンを使ったものは目にすることが少ない。これを考慮することができれば、企業などのイメージ戦略として活用できるのではないか。デザインで更なる飛躍はできないか、包装紙にも応用できるグラフィックパターン、折り方を研究した。

## 2.調査と分析

日本において、ものを「包む」という行為は、風呂敷の原型が作られた奈良時代から頻繁に行われるようになった。風呂敷は、実用品としてものを包んだり、運んだりと様々な多様性があったが現在では贈答品を包む目的がほとんどで、特別な場合にしか用いられない。代わりに現在では、コストも安く大量生産できる包装紙がさまざまな場所で用いられている。包装紙の歴史は古く、江戸時代末期に誕生し、それぞれの店のこだわりが凝縮されたグラフィックデザインの歴史でもある。

また、基本の包み方として3種類の折り方がある事がわかった。研究対象として、和菓子の老舗「株式会社文明堂 新宿店」の贈答用カステラ用包装紙を題材に選んだ。

## 3.コンセプトの立案

「平面のものが立体に折られたとき、面白い変化が起こるグラフィックパターンの作成と、新しい包装方法の考案」

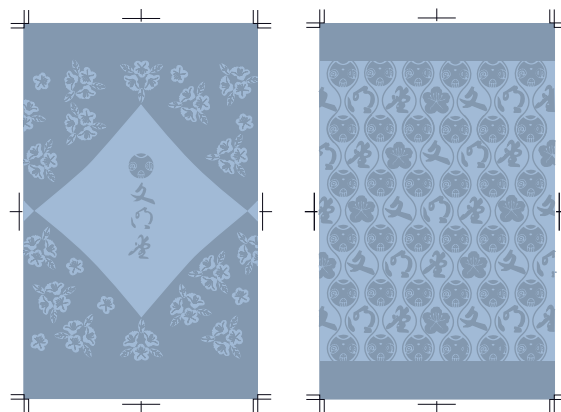
包装するという行為だけではなく、視覚で楽しむという新しい包装紙の目的の一つとして考案する。

## 4.デザイン展開

規格された菓子箱を基準として包装紙を作成する。今回はモデルとして2分の1サイズで作成した。

また模様は伝統美ともいわれる日本文様をもとに独自の新しいグラフィックパターンを作る。文明堂のコーポレートカラーの青紫色やロゴマークなどを使い、ブランドイメージを壊さないようにする。基本の包装紙の包み方をもとに、新しい包装方法を2種類作成することができた。

## 5.完成図



## 6.結論

複数の人に作成した包装紙で箱を包んでみてもらったところ、「複雑な折り方でなくわかりやすい」「模様がきれい」などの意見をいただいた。

しかし、当初の研究目的を考えると、もっと模様に変化を持たせることができたのでは、折り方のバリエーションを増やせたのではという声もあった。この意見もふまえて、もっと包装紙のデザインの可能性を引き出していきたいと感じた。

## 7.参考文献

参考文献:岡登貞治『新装普及版日本文様図鑑』  
東京堂出版  
協力:株式会社 文明堂新宿店